

# 七十七ビジネス大賞受賞

第12回(平成21年度)

## 企業 インタビュー

Interview

## 東北ゴム株式会社

代表取締役社長 山口 政男 氏



### 会社概要

住 所：仙台市宮城野区港一丁目1-12  
設 立：昭和18年(創業：昭和15年)  
資 本 金：276百万円  
事業内容：工業用ゴム製品製造・販売  
電 話：022(387)1511(代)  
U R L：http://www.tohoku-rubber.co.jp

## エスカレータの手すり部分に使用される「ハンドレール」で国内トップシェア約60%を誇る東北地区を代表する老舗工業用ゴム製品メーカー

今回は「七十七ビジネス大賞」受賞企業の中から、東北ゴム株式会社を訪ねました。当社は、工業用ゴム製品メーカーとして創業。以来、「品質」「コスト」「納期」の追求に挑戦し続け、現在はバリエーション豊富な産業用ゴム製品を製造・販売し、中でも「ハンドレール」では、国内トップシェア約60%を誇っています。当社の山口社長に、今日に至るまでの経緯や事業の特徴などについてお伺いしました。

### 工業用ゴム製品メーカーとして創業 ——七十七ビジネス大賞を受賞されたご感想をお願いします。

応募したきっかけは、宮城県にハンドレールのシェア日本一の企業があるということを知ってもらいたかったためです。受賞後は、新聞に掲載されるなど当社の知名度も上がり、従業員のモチベーション向上にも繋がっていると感じられ、大変嬉しく思っています。

会社全体で頂いた賞であり、奨励金は従業員全員に還元したいとの思いから、集合写真でクオカードを製作し、全従業員に配布しました。また、ソーラー時計の設置やナナカマドの記念植樹を行いました。ナナカマドの花言葉は「安全」です。従業員が安全に仕事に専念して欲しいとの思いを込めています。

### ——創業の経緯をお聞かせください。

昭和15年、国庫補助により東北護謄工業組合施設工業として創業しました。炭鉱・鉱山などで利用されるベルトコンベアやゴムホースが主力製品で、

東北・北海道を中心に供給していました。その後業容を拡大し、昭和18年に東北ゴム株式会社を設立しました。また当時は、電線の被覆にゴムが使用されていたことなどもあり、昭和38年には日立電線株式会社のグループ企業の一員となりました。

平成12年11月、創業地の長町から現所在地へ工場を移転したことを転機に、既存設備の大幅な近代化を図りました。また、ベルトコンベアなどの当社が主力としてきた事業のいくつかは需要の先細りが見えていたこともあり、日立電線(株)から技術を引継ぎ、本格的にハンドレールの生産を行うなど業態転換を進めました。

### ——経営理念を教えてください。

当社では、「お客様本位で行動する会社」「約束を遵守し、スピードで実行する会社」「従業員が明るく生き生きと前向きに働ける会社」「社会に貢献する会社」の4つを経営理念に掲げています。

一つ目は、何事もお客様を中心に考え行動するという会社全体の考え方を示しています。

二つ目は、仕事はすべて約束で成り立ち、同時にスピードも重要であるという考えを根付かせたいと思い、理念の一つとしています。

三つ目は、人生の大半を過ごす会社生活を明るく生き生きと楽しんで欲しいという思いから理念に加え、従業員が働きやすい環境作りに努めています。

四つ目は、会社の存在意義は世の中の役に立つことであるという考えから、当社の事業を通じて、地

域・社会に広く貢献したいとの想いを込めています。

## 多様なニーズに対応

### ——事業内容を教えてください。

当社では、永年培ってきた独自の製造技術を活かし、各産業界からの多様なニーズに対応する各種ゴム製品の製造・販売を行っています。具体的には、シート・ホース・ハンドレールの3事業及びバックナー（フレキシブルコンテナバッグ）などを取扱っています。また、日立電線(株)で製造した情報機器部品・各種高機能製品、具体的には、銀行ATM用ローラ・各種プリンタローラなどの販売も行っています。

当社は、特に複合製品を得意とし、また原材料は原則すべて日立電線グループでの一括仕入れとなっており、低コストでの調達が可能となっています。

### ——製品の特徴を教えてください。

当社のゴムシートは、電機・エレクトロニクス等の先端分野に対応しており、また環境に最大限配慮した製品開発を行っています。具体的には、主に半導体工場などで静電気除去のために使用される「エレリク」、体育館で傷防止に使用される「フロアシート」、介護用の「滑り止め防止マット」、医療器具用の「ウォーターベッド」、工業用の複合材である「Z-1ライナー」や「ネバラン」などの製品を取扱っています。

当社のホースの特徴は、30mラインの大口徑・長尺製品に優位性があることです。当社では、環境に配慮した新素材を応用し、セラミックスやポリエチレンなどとの複合構造及び特徴ある「大口徑・長尺ホース」など高機能製品の開発を継続しています。例えば、セラミックの粒を内面ゴムに埋め込んだ耐摩耗性の高い「セラホース」や、最初から曲げて成型した「セラバンドホース」、環境に優しい「EC Oライトホース」などの製造も行っています。

また当社では、粉体・粒体の輸送及び貯蔵を目的とした耐久性が高く、かつコンパクトにたためるゴム製バック、「バックナー」などの製造を行っています。導電性・自立バックナーなど輸送・貯蔵のニ



写真提供 (株)日立製作所殿

国内トップシェアを誇るエスカレーター用ハンドレール

ーズに応えた製品展開をしており、上下開閉可能なため運搬効率が良く、何度でも繰り返し使用することが可能です。その他にも、送電線の鉄塔用の土砂を運ぶために使用されるバケツなど様々なゴム成型品の製造を行っています。

## 独自のイメージ色を実現

——「ハンドレール」事業に参入した経緯をお聞かせください。

当社では、昭和30年代にハンドレールを開発し、その後日立電線㈱で発展した技術・製造の移管を平成13年に受け、エスカレータのハンドレールの生産を開始しました。当社が従来から製造を行っていたベルトコンベアの構造は、ハンドレールと類似しています。ハンドレールの製造は、当社が蓄積してきたノウハウなどを大いに活用できる分野でもありました。

近年、病院やデパートでは抗菌・静音効果のある製品が主流であるなど場所に合わせたニーズも多く、静音のために帆布に工夫をしています。薄型・超薄型の製品の開発も進み、場所による制約が低減されています。また、ゴム製以外のウレタン製の製品も約15～20%使用されています。ウレタン製は、汚れにくく綺麗な色が出せるという特徴がありますが、剛いため傷が目立ちやすいという欠点もあります。

——御社の「ハンドレール」の特徴について教えてください。

ハンドレールは、国内主要メーカーに納入し、耐久性・強度・色彩・安全面などで他社との差別化を図っており、現在では国内トップシェア約60%と高い市場占有率を有しています。通常のハンドレールの長さは25m程度であり、近年は動く歩道など長尺の製品の発注を受けることもありますが、当社では様々なニーズに対応可能な生産体制を確立しています。

当社製品は、品質・耐久性・強度に優れており、長寿命なのが特徴です。また、海外では黒色の製品が約90～95%を占めていますが、日本では約75%がカラーで、企業独自のイメージ色の注文も多く、

当社では約500色の色彩に対応しています。安全に利用していただけるように、弱視者向けの模様を入れたり、利用者が掴みやすい断面構造になっていたりすることも特徴の一つです。

## 「品質」「コスト」「納期」の追求

——工場設備・生産体制についてお聞かせください。

当社では、仙台本社・工場を拠点に、北は札幌から南は福岡まで全国に5支店・3営業所を展開しています。なお人員規模は、支店で10名程度、営業所は2～3名程度となっています。札幌や九州に拠点があるのは、昔炭鉱があった名残ですね。当社では、トヨタのカンバン方式の採用により必要最低限の在庫のみを保有し、一目でわかるシステムを導入するなど、短納期の実現のために、徹底した生産管理を行っています。

また、「きれい・やさしい・よろこばれる」のコンセプトのもと、最先端情報技術による合理的設備や環境に配慮した省エネ設備を取り入れています。具体的には、太陽光発電装置、水処理装置、脱臭装置などがあります。工場移転時に最新設備へ切り替えたため、ゴム練りなどはすべてコンピュータ制御による設備となっています。

——どのような営業活動をされているのですか。

当社では、2010年のスローガンとして、「信頼され期待される会社へ—めざそう！ベストQ・C・D・S・S—」を掲げています。Qは品質、Cはコスト、Dは納期の略で、製造業に共通する重要な課題です。二つのSはサービスと安全を意味していますが、当社ではサービスで他社との差別化を図れるよう、この方針を従業員に徹底し、アフターフォローなどに力を入れています。

また当社では、定期的に「お客様満足度調査」を実施し、お客様の様々な声に応えられるよう日々努力しています。主なチェック項目は、営業マンの対応や価格など8項目に分かれています。最近では厳しい経済情勢を反映し、特に価格面での採点が厳しくなる傾向があります。また、営業マンの対応などで評価が低い場合には、該当する従



管理表（左）と掲示板（右）

業員に直接伝えるなど細かく指導することもあります。

### ——どのような人材育成をされていますか。

当社は、誠実で志の高い「誠」のある人を求めています。研修は工場などでの現場実習の他、日立電線㈱の教育体系に沿った研修を取り入れ、総合的な人材育成を進めています。また、テーマを設けて勉強会や発表会を行う社内のサークル活動も積極的に行っています。JIT方式も取り入れており、現場での問題点を提案し、改善策を発表しあうなど様々な研修を行っています。新入社員に対しては、ブラザーシスター制度によりマンツーマンで教育し、同時に相談しやすい場の提供に努めています。

当社では、経営理念の一つである「従業員が明るく生き生きと前向きに働ける会社」の実現のために、公平・公正な人事制度を実施しています。また、サッカー部を創設するなど福利厚生を整えることで、従業員に喜んでもらいたいという想いがあります。AED装置や地震緊急速報装置なども早期に導入することで、従業員が安心して働ける環境作りにも力を入れています。

## 「ECOカルシート」の開発

### ——環境理念についてお聞かせください。

当社では、産業廃棄物や排出ガス、使用エネルギーの削減、排出水の水質改善、化学物質管理の強化、

環境に配慮した製品の設計及び製造、グリーン調達推進などの環境保全に努め、環境に優しい設備の導入や製品の開発に取り組んでいます。

「加硫」とは、ゴムの性質を引き出す工程を言いますが、一度加硫をすると再利用ができず、以前はほぼ100%埋立て処理を行っていました。現在は、廃棄物の1%以下のみ埋立て可能という日立グループの基準があるため、分別管理を徹底し燃料として再利用しています。当社では、現在廃棄物の0.7%を埋め立て処理していますが、日立グループでは2年以内に0.5%以下にするという基準を定めており、これをクリアする目途もたっています。また、自治体などと協定を結び、厳しい基準のもと環境問題に取り組んでいます。

### ——「ECOカルシート」について教えてください。

当社のクロロプレンゴムシートは、天然ゴムシートに比べ、耐油性・耐候性・耐熱性に優れた汎用性の高い万能な合成ゴムシートで、自動車用部品や電気器具の材料などに使用されています。しかし、シートに塩素が含有されているため、焼却の際に不完全燃焼によるダイオキシンなどの有害ガスの発生が課題となっていました。

「ECOカルシート」は、従来品とほぼ同等の特徴を有したまま有害な化学物質を含まず、従来品と



混練工程（左）と分別管理（右）

# 企業 インタビュー



作業風景

比較して約20%の軽量化を実現しました。焼却の際に有害物質が発生しないだけでなく、禁止物質も使用していません。また、価格は従来品と同レベルを維持しており、4サイズを在庫化することにより短納期で納入できる体制を整えています。

## 経営に王道なし

——今後の事業展開について教えてください。

当社は、2009年に日立電線(株)の100%子会社になりました。日立電線グループの中には、ゴムの製造を行っている会社が数社あります。グループの中で中核となれるように、事業の拡大や安定化に努めていきたいと思っています。

海外展開については今のところ考えていません。現在、中国へエスカレータのハンドレールの技術供与を行っています。海外に進出するためには、人員やコストなどの問題もあるため、容易にはできないと思っています。

——最後にこれから起業する方へアドバイスをお願いします。

製造業においては、お客様に喜ばれる製品を作ることが大切だと思います。当社では売上は、お客様に喜んでもらっている度合いであると考えています。気持ちのこもったものを作ることが大切です。また、日本一になるためには、品質に対する飽くなき追求やこだわりが必要です。

そして成功を収めるためには、地道にコツコツや

っていくことが大切です。経営に王道は絶対ないと考えています。しっかり勉強し、コツコツやっていくことが何よりも大事なことでしょう。



本社前にて

長時間にわたりありがとうございました。御社の今後ますますの御発展をお祈り申し上げます。

(22. 5. 21取材)



記念植樹(左)とソーラー時計(右)